

令和7年度 第1回 安曇野市水環境審議会 会議概要

1	審議会名	令和7年度 第1回 安曇野市水環境審議会
2	日 時	令和7年6月9日 午後2時00分から午後4時00分まで
3	会 場	安曇野市役所 本庁舎3階 全員協議会室
4	出席者	遠藤委員（会長）、村上委員（副会長）、保尊（利）委員、山崎委員、望月委員、 矢花委員、降幡委員、荒芝委員、新村委員、門崎委員、保尊（と）委員、 山田委員、森岡委員、本間委員
5	市側出席者	赤沼（市民生活部長）、百瀬（環境課長）、所（課長補佐兼環境政策担当係長）、 丸山（環境政策担当）、高橋（環境政策担当）
6	公開・非公開の別	公開
7	傍聴人	1人 記者 1人
8	会議概要作成年月日	令和7年6月23日
協 議 事 項 等		
次第		
1	開会	
2	委嘱書交付	
3	市長あいさつ	
4	自己紹介	
5	会長及び副会長の選出	
6	概要説明	安曇野市水環境審議会と水環境基本計画及び行動計画
7	協議事項	
	（1）点検・評価等について	
	①令和6年度 事業実績・評価	
	②地下水利用状況（令和5年度分）	
	③水収支の評価	
	④令和6年度地下水位観測調査	
	⑤令和6年度地下水（井戸水）水質調査結果（概要）	
	⑥千曲川河川事務所においての地下水観測状況	
	（2）令和7年度事業計画（案）について	
	（3）麦後等湛水に伴う湧水量効果検証の結果について	
	（4）あづみ野排水路から新たに生じる地下水涵養量の試算	
8	その他	
	・次回（第2回）の審議会開催について	
9	閉 会	
会議概要		
6	概要説明	安曇野市水環境審議会と水環境基本計画及び行動計画
7	協議事項	
	（1）点検・評価等について	
	①令和6年度 事業実績・評価	
	②地下水利用状況（令和5年度分）	
	③水収支の評価	
	④令和6年度地下水位観測調査	
	⑤令和6年度地下水（井戸水）水質調査結果（概要）	
	⑥千曲川河川事務所においての地下水観測状況	

事務局：(資料1～7の説明)

委員：河床が下がるとよくないのか。どのような影響があるのか教えてほしい。

事務局：河川の隣に水田、わさび畑がある場合、河床が下がると河川の方に水が流れてしまい、わさび畑の水位も下がることになる。

委員：わさび畑も掘らなければいけないという話になったのか。

事務局：そう。この地域の畑の持ち主たちは、河床の低下が原因ではないかと実感しており、これを受けて対策協議会を立ち上げ、対応を進めている。

委員：わかった。

委員：補足だが、わさび畑の人たちの間で問題となっている河床の深掘りについては、全体が下がるのではなく一ヶ所が深く掘られ、その結果、その場所に水が集まるという状況が生じている。このため、問題のある場所を埋めることで水の流出を抑えられるのではないかと提案がされている。過去には河川内に土手を設け、水位の低下を防ぐ工夫がされてきたが、国土交通省の理解がなかなか得られず、大雨が降った際にも流れても構わないから、深掘りされた箇所に土砂を入れて平らにしてほしいとの要望が続けられているものの、今のところ進展がほとんど見られていないというのが現状である。

委員：質問ではなく補足だが、具体的には、水位の低下については明確な要因を特定するのが難しく、わさび畑と河川の位置関係も影響する。山からの水が地下水の主な水源であり、河川の水位と地下水の水位のバランスから、河床の低下が一番の原因ではないかと話しているが、現時点ではその解明には至っていないのが現状ではないかという認識である。今後さらなる調査が必要だと思っている。

委員：河床の低下に加え、犀川の水量にも影響を受けるということか。

委員：水量によるところが大きい。松本平では水量の大きな変化は見られない。一方、わさび畑の農家の方々の意見によると、水の流速がより必要だという話を伺っている。新鮮な水を豊富に与えることで、質の高いわさびの芋を育てることができるため、水位に加えて、水頭圧が不足すると流れの勢いが減少し、良質のわさびができない。全体の水量が一見安定していても、部分的な水量の必要性が出てくる。安曇野市の特産品であるわさびを大切に守るために、慎重な議論がされていると思う。

事務局：説明不足であったが、犀川・梓川河床低下防止対策協議会において、対策が協議されている。その中で、先ほど説明した河床に石を置く対策について、令和5年度に袋詰め玉石を配置する犀川の河床低下防止工事を行った実績がある。

委員：犀川は中部電力が作った小さなダムの影響で、上流からの砂の供給が止まり、その結果、河床がどんどん削られていって10メートル近くは簡単に掘り込まれてしまう。川に水が流出することにより必要な水量が確保できず、わさび畑への影響が出ている。3～4年前から大王わさび農場ではわさびが育たなくなり、観光客からもわさびが見られないとの声が上がっていた。わさび組合としても頭を悩ませており、協議会でお願いしたところ袋詰め玉石を入れていただいた。その結果、昨年から大王わさび農場ではわさびの生育状況が良くなり、湧水量も改善されたと感じている。直接の因果関係はわからない部分もあると思うが、わさび農家の体感ではやはり河床の低下は湧水量に影響があると感じている。

(2) 令和7年度事業計画(案)について

事務局：(資料8の説明)

(3) 麦後等湛水に伴う湧水量効果検証の結果について

八千代エンジニアリング：(資料9の説明)

委員：30日から半年効果が続くという結果は良いと思うが、やはり冬場を実施する方が時期としては適當ではないか。

八千代エンジニアリング：

直接的な効果を求めるためには時期と範囲を絞ってやるべきだと思う。それには水の手配が一番の課題ではないかという認識である。

委員：指摘のあったように縛りがあり、改善しなくてはならない課題だが、国会でも取り上げられず、前進させる人物もいないのが実態である。

委員：無条件の状態で考えるならばわさび畑の地下水を冬場に上昇させるには秋口から水を入れるのが良いと思うが、場所はどこが良いか。

八千代エンジニアリング：

松本盆地の砂礫層は全体として大きな違いはないと考えており、どこに水を入れても押し出し効果は変わらないと思うが、地下水の流れなどが存在する場合は、その流れに合った場所に入れた方が、より効果的な可能性がある。この調査は信州大学の榊原先生が進めているとのことで、調査結果を踏まえて検討することになると思う。

委員：今後麦後湛水を続けるとしたら、資本金の出所はどこで、どのように進められるのか。

事務局：安曇野市農業再生協議会に市から負担金を出しており、再生協議会から農家に依頼する形になっている。かねてより、資金を集めて人工的涵養を行っていかうといった議論があったが、令和2年頃に科学的根拠が必要だとの話があり今回の検証が行われた。冬季の涵養に特化した効果がないとなると、第二次計画では人工的涵養をどのような方法で行うか、研究結果も踏まえて考えることになる。

委員：冬場、例えば12月から2月にかけて湛水を行うことが理想的であることが分かっても、水利権の関係で水を調達できない問題がある。そのため、資金の調達や実行の意思があっても、水を供給できない状況では進展がない。このような法的な制約を解決するためには、市から国に陳情するなどして、水利用が可能となるよう具体的な対応を進める必要がある。

委員：水循環基本法が2014年に制定された。これにより、内閣官房水循環政策本部というトップが内閣総理大臣の立派な組織ができたが、具体的な動きがない。冬季の水利用と言っても実際には水の中抜きする訳ではなく、地下に浸透させて下流で湧水として出させるだけなので、認めてもらえればと思う。この後説明があると思うが、あづみ野排水路に水が入るようになって、田淵行男記念館の水枯れが改善された。わさび農家が経験的に感じていることの実証や水資源の有効活用に国として取り組んで欲しいと思っている。

(4) あづみ野排水路から新たに生じる地下水涵養量の試算

事務局：(資料 10 の説明)

(全体質疑)

委員：あづみの水結の活動で憩いの池の清掃協力が 7 月と 9 月にある。8 月には水めぐりツアーがあるがいずれも金曜日である。土曜日であれば学生や児童も参加でき、親子参加も可能になるがなぜ金曜日なのか。

事務局：憩いの池清掃は都市計画課が中心で、複数の課や事業者の協力があるため平日となっている。土、日曜日開催を提案したこともあったが、複数の課が関係していることで調整が難しい。水めぐりツアーは 8 月 1 日が「水の日」となっているため、これに合わせて実施する。こちらは子供たちが夏休みの時期であることからむしろ応募が多く、去年は募集枠に対して約 10 倍の申し込みがあった。

委員：水利権についての理解が不十分なので、法律に基づく運用や規制についての詳細な説明がほしい。全国的には運用面で涵養利用が許可されているケースもあると聞いている。法的な規制や運用の具体的な内容を整理し、どの部分が問題で、どのように解決すればよいかを明確にする必要があり、国への要望を効果的に行うためにも重要である。そのあたりを審議会で共有したいと思うので、次回以降示して欲しい。

委員：事務局はぜひ検討していただきたい。去年の審議会では神奈川県秦野市からオンラインで冬場の水張りについてお話があり、冬季における水の確保方法について質問したが曖昧な返答だった。もし可能であれば情報収集をお願いしたい。おそらく水利権の目的の中に地下水涵養が入っていないことが最大のネックではないかと思う。

委員：抜け道ではないが、もう少しグローバルなとらえ方や社会情勢の変化に合わせた運用を考えていかなければならない。そのためには、元々の仕組みを理解する意識を持たなければならない。

委員：麦後湛水について、私の体感では夏に水を張ると逆にコビエなどの雑草が増加する。そうすると除草剤等のコストがかかるため、水張りはやっていない。麦後湛水に 100%の農家が参加していないのはそのあたりが理由だと思う。農家以外の方にはそのあたりを知っていて欲しい。また、20 年ほど前に冬水田んぼを行っていた近所の農家では、何十羽の白鳥が田んぼに飛来し、あぜの草やその根元の虫をつついて食べたため、あぜを壊れてしまった。あぜの復旧には修復費用がかかるという農家側のデメリットがある。

8 その他

事務局：(あづみの水結パンフレットとプレスリリースの説明)

次回(第 2 回)の審議会開催について

事務局：令和 7 年度第 2 回安曇野市水環境審議会は、8 月 8 日(金)としたい。

6 閉会

以上